

# 自閉症スペクトラム支援の実践知をつなぐ

—今、伝えたい、残しておきたい取組方とは—

期 日：2017年 7月29日(土)・30日(日)

受講対象：自閉症や特別支援教育に関わる教諭、養護教諭、学校関係者のほか、保育・相談に関わる専門職の方、および保護者の方々

定 員：80名(定員になり次第締切りますのでホームページ等でご確認ください)

受講料：10,000円(税込み) ※昼食は各自おとりください

主 催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団

会 場：明治安田こころの健康財団 講義室 ※詳細地図は受講証に添付いたします

東京都豊島区高田3-19-10 ☎03-3986-7021

JR山手線・西武新宿線・東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車徒歩約7分

医療、教育、福祉、就労の現場で共通する深刻な問題の一つが人材育成です。例えば、教員の年齢構成を見ると、平成10年当時は、40歳代を中心に豊富な中堅・ベテラン層があり、教育現場の課題に対応しつつ例えば職場の「飲み会」といったインフォーマルな形で後輩の育成を図ってきました。ところが、平成25年前後になると中堅・ベテラン層は手薄になり、大量の若手教員と中堅的な年齢であっても経験の少ない教員へと大きく変化しています。それらの状況の中で、今日的な教育課題への対応と後輩への支援が求められています。

日本では、1952年に驚いたえ子氏が「レオ・カナーのいわゆる早期幼年性自閉症の症例」を報告してから、医療、教育、福祉、就労の現場で自閉症支援に取り組まれてきました。しかし、その取組は決して平坦ではなく、数多くの曲折と試行の連続でした。人材育成が深刻な課題とされている今日、私たちは、これまで先人たちが苦難の中で培ってきた実践知を次代にしっかりと引き継ぎ、自閉症スペクトラムのある人とその家族に安心した豊かな生活を途切れることなく提供していくことが求められています。

2017年度の講座では、「自閉症スペクトラム支援の実践知をつなぐ」ことをテーマに、自閉症スペクトラム支援を牽引してきたエキスパートから医療、教育、福祉、就労の現場において蓄積されてきた「これを伝えたい」というべき基本的な支援方法と留意点を学びます。ベテランはこれまでの取組を振り返り、また、若手は支援の見通しが得られる機会になることを願っています。若手からベテランまで、できるだけ多様な現場からさまざまな層の皆さんの参加を得て、自閉症スペクトラム支援について一緒に考えてきましょう。

《企画講師：横浜国立大学 教授 渡部匡隆》

## 【プログラム】

日程	時間	テーマ	講師(敬称略)
7月29日(土)	13:00~14:20	診断と医療的支援の取組方と留意点	埼玉県発達障害総合支援センター 市川 宏伸
	14:30~15:50	保護者支援の取組方と留意点	新潟大学 有川 宏幸
	16:00~17:20	乳幼児支援の取組方と留意点	明治安田こころの健康財団 新井 利明
7月30日(日)	9:30~10:50	学齢前期の支援の取組方と留意点	都立清瀬特別支援学校 市川 裕二
	11:00~12:20	学齢後期の支援の取組方と留意点	横浜国立大学 渡部 匡隆
	12:20~13:20	昼 食 (各自おとりください)	
	13:20~14:30	青年期の支援の取組方と留意点	発達障害者就労支援センター ゆに(UNI) 平 雅夫
	14:40~16:00	中高年期の支援の取組方と留意点	国立のぞみの園 志賀 利一

※テーマ・講師・時間等変更となる場合がありますのでご了承ください。